

公共交通利用促進検討部会の検討状況

平成28年11月15日

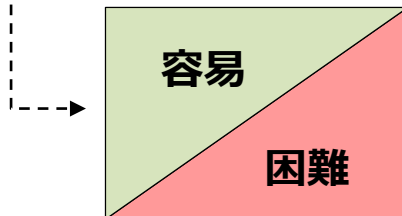
松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会

市内全域を対象



【公共交通の利便性の定義（案）】

		バス・軌道・フェリー				バス停・電停・ フェリーターミナルから 1,000m圏外
		バス停・電停から300m圏内、又は、 フェリーターミナルから1,000m圏内		バス停・電停から 300～1,000m		
		ピーク時バス片道 3便/時以上 又は、バス片道 30便/日以上	ピーク時バス片道3便/時未満			
			バス片道 3～30便/日		バス片道 3便/日未満	
鉄 道	駅から 700m圏内	容 易（＝便利）				
	駅から 700～1,000m	(準容易) (＝準不便)	困 難 (＝不便)		不 能 (＝空白)	
	駅から 1,000m圏外					



・今後、地域別又は路線別に「容易」「困難」に区分する。

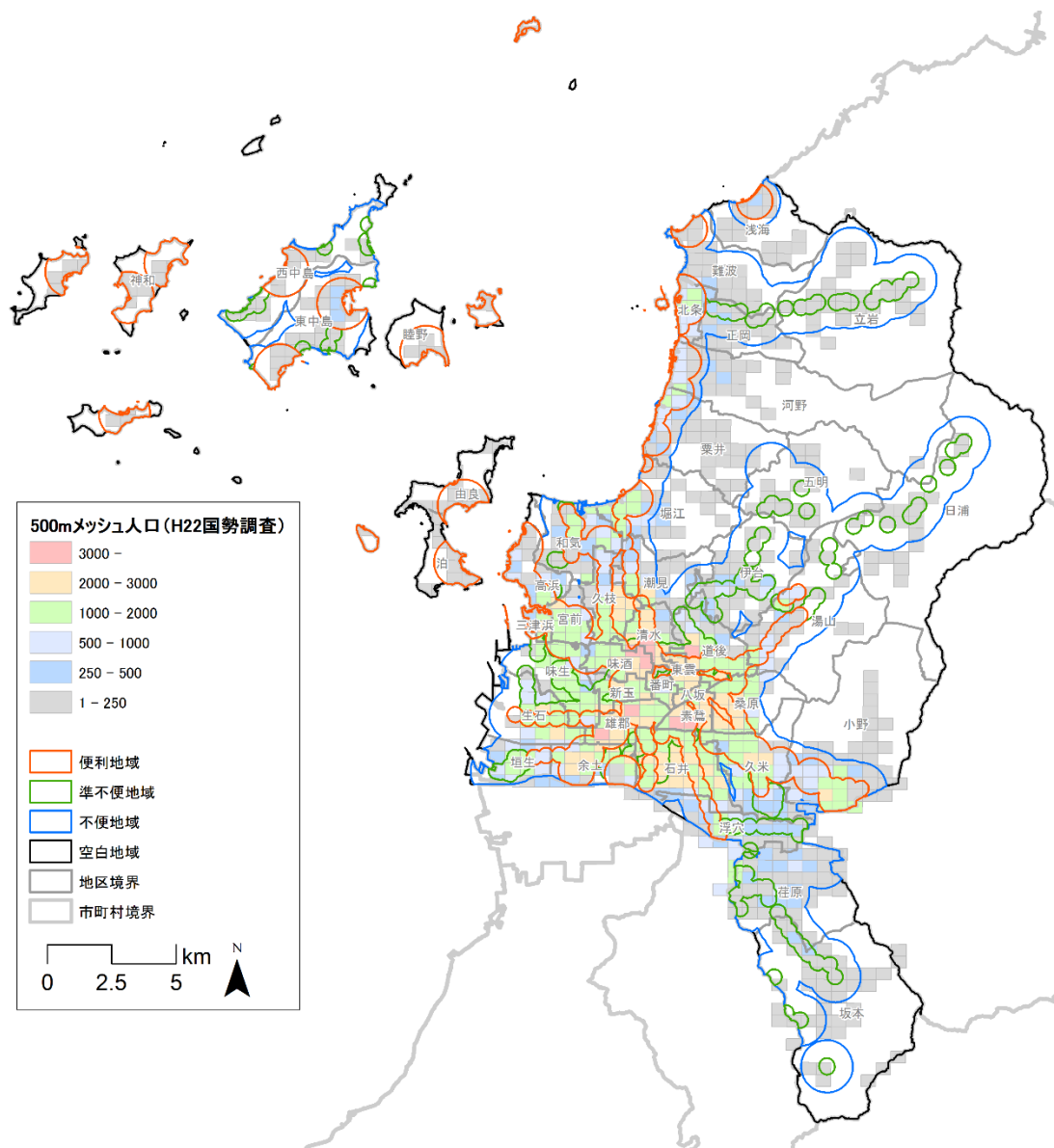
- 都心地区に比較的近いエリアにおいても準容易（準不便）地域、困難（不便）地域が分布している。
- 市民の約60%が比較的良好な公共交通サービスを享受できる一方で、約25%が公共交通サービスの利用が困難もしくは不能となっている。

【松山市全域（平成22年）】

サービスレベル	人口	カバー率
容易（便利）地域	31.1万人	59.9%
準容易（準不便） 地域	7.5万人	14.5%
困難（不便）地域	12.4万人	23.9%
不能（空白）地域	0.8万人	1.6%
合計	51.9万人	100.0%

（補足）

- ・ 人口は500mメッシュ人口から推計（H22国勢調査）
- ・ 端数処理の関係で合計値が一致しない



■ カルテの作成目的

- 地形、人口、施設、交通行動等の実態を地区別に整理することで、各地区毎の交通の問題点および課題を、具体的かつ地域の実情に合った形で抽出し、今後の地区別の交通改善方策の検討（例：新規バス路線の検討、路線バスから乗合タクシー等へのモード変更）に活用して行くことを目的とする。
- また、前回部会の意見をふまえ、今後のバス再編等の検討に活用していくことをふまえて、バスの主要方面別のカルテも作成する。

■ 整理項目（案）

	地区別 (平地部)	地区別 (中山間部)	方面別 (バス幹線軸ごと)
地形特性(標高、勾配)		○	○
人口指標(人口密度、人口、高齢化率、運転免許および自動車保有状況等)	○	○	
施設分布(学校、病院、商業施設、公共施設等:対象は要検討)	○	○	○
交通行動の実態(外出頻度、手段分担率、主要な目的地等)	○	○	
交通サービスの実態(公共交通の利便性、カバー人口等)	○	○	○
バスの利用実態(バス停間ODレベル、断面レベル←ICカードデータ活用)			○
交通に関する問題点(満足度、買い物時の問題点等)	○	○	
都市計画道路等の整備計画	○		
問題点・課題の整理および改善方策の方向性	○	○	○